

2015年5月21日

米国のソーシャル天気会社 Weathermob のアプリ事業買収に関するお知らせ ～個人向け事業の北米展開を加速し、世界最大の気象プラットフォームへ～

株式会社ウェザーニューズ(本社：千葉市美浜区、代表取締役社長：草開千仁)は、個人向け事業の北米展開の加速を目的に、ソーシャル天気でアメリカ最大の気象アプリを展開する Weathermob(本社：米国ボストン、CEO：Julia LeStage) のアプリ事業買収について合意いたしました。

ウェザーニューズは、過去10年間全国のウェザーリポーターから寄せられる空の写真や体感報告を気象予報に導入する“みんなで作る天気”を日本で実施してきました。2014年にはグローバル向けのソーシャル天気アプリ「Sunnycomb」をiOS、Androidでリリースし、北米、アジアを中心に、“みんなで作る天気”を拡大しています。このたび既に140カ国のユーザーから空の写真が寄せられる気象コミュニティを構築しアメリカ国内外で高く評価されている Weathermob と連携することで、世界最大の気象プラットフォームを形成し、北米事業展開を加速します。これまで以上に多くの方から寄せられる世界の空のリポートを気象予測に活用し、各国で信頼性の高い情報提供を目指します。なお、スマホアプリ Weathermob はこれまで同様に利用可能で、Weathermob のCEOである Julia LeStage は、Chief Editorial Officer (コンテンツ編集責任者)としてウェザーニューズの一員となります。

Weathermob は2011年にiOSをリリースし、ダウンロード数40万、月間ユーザー数10万人、1アクセスあたりの平均セッションタイム6分と、ユーザーからの信頼が厚いアプリとして、アメリカで注目されています。Weathermob はアメリカで、ウェザーニューズは日本でソーシャル気象プラットフォームをそれぞれ形成し、会員から寄せられる現地のリポートを気象予報に活かし、よりきめ細かい実況や予報をお届けするサービスを行ってきました。世界における急激な気象変化などデータの収集は両アプリで行い、ウェザーニューズが気象予報に活用することで、世界の気象予測の精度のばらつきを埋めることができると考えています。ウェザーニューズは日本での知見を活かし、世界最大の気象コミュニティの形成や予測精度の向上を目指します。

なお、この決定によってウェザーニューズの基本的状況に重要な変化が生じることが見込まれないので、適時開示は行っておりません。